

「誰一人取り残さない授業づくり」研修会

ー プロジェクト理念 ー 「すべての子どもに自ら学びをつくっていきける姿を」

今年度は、国語、算数・数学、外国語、社会の4教科で、「おきたまの教育」、国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」等に基づいて授業づくりを行ってきました。小・中学校教員の合同チームで授業づくりを行ったことで、「**学びの系統性**」を考慮した実践となりました。

各教科ともに、**単元で授業をつくることや学び方を学ぶこと**を意識してきたことにより、本時の授業内容だけでなく**指導計画、学習評価においても提案性の高い実践**となりました。

ご協力いただいた教科研究員の先生方及び会場校の先生方、そして研修会にご参加くださり熱心にご協議いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

これからもチーム置賜で「子どもも大人も、ともに学び合える喜びを感じるような一日、一日」の実現に向けて、誰一人取り残さない授業を創造していきましょう。

教科研究員の声と研修会に参加された先生方の感想を紹介します。

【実践の概要】 ◎授業者

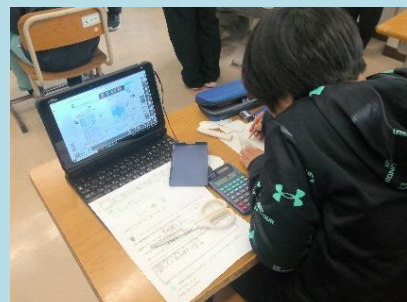
《 算数・数学 》

(小学校第5学年で実施)

研究員：◎星野 いづみ 教諭、蒲生 圭太 教諭、市川 健二 教諭

子ども達が、一人で学びを積み重ねていく時間を大切に

「多様な考えを生かしたい図形の単元でも単元内自由進度学習は可能かどうか？」立体図形を開いたり組み立てたりする活動が充実するよう、学習環境を整えながら、教科の学び方が身に付く授業を目指しました。



単元名 ◆「角柱と円柱」

【研究員の声】

- 「単元内自由進度学習」へのチャレンジは、子ども達がどんな戸惑いをもって授業に参加しているのか、教師はどのように支援していくのか、考えるきっかけとなりました。単元内で付けたい力を明確にしながら、次の手立てを考えていくことの大切さを感じました。子ども達の主体的な学びの姿を見ると、やってよかったなと思います。
- 「すべての子どもに自ら学びをつくっていきける姿を」実現するには、私達の授業に対する考えをアップデートしていく必要があると思いました。「この方法がベスト」という解はないと思いますが、子ども達が自立した学び手として、見方・考え方を働かせることができる土台づくりをしていきたいと思ひますし、「単元内自由進度学習」を校内にも広めていきたいと思ひます。
- 何より子ども達の反応がよく、算数を学ぶことの楽しさを実感していると感じました。授業の中で、教師がいかに子ども達の学びを把握して子ども同士をつないでいくのかという、教師のコーディネート大切さを改めて感じました。一斉授業での見取りの仕方についても、考えていきたいと思ひます。

【参加者の感想より】

小学校で、体験活動や操作活動をしてきた経験を、中学校の授業でも生かしていく必要があると感じました。



日々の授業では、子ども同士で話し合っ分る授業を目指していますが、普段の授業でも単元内自由進度学習でも共通している大切なことは、やはり教材研究だと改めて思ひました。自由進度学習を行うには、教材研究をより深くすること、場の設定も大事だと思ひました。



間違えても何回も挑戦する子どもの姿が見られました。普段の先生の声かけや褒める姿勢といった関わりが、子ども達のすてきな姿につながっているのだと思ひました。



《 外国語 》 (中学校第1学年で実施)

研究員：◎新沼 希美 教諭、井上 幹也 教諭
戸田 緑 教諭、安孫子 遥 教諭

すべての子どもに、自ら学びをつくることのできる力を

クラスの中には、英語が得意な子ども、苦手な子どもいます。
多様な子どもたちの“今”を受け止めながら、どうしたら
すべての子どもに学びをつくっていく力を育めるのか、授業
の当たり前を問い直すことにしました。



単元名 ◆「Unit8 Surprise Party」(New Horizon English course I)

【研究員の声】

- 子どもが自ら学びを獲得していく過程が少し分かったような気がします。子どもに委ねることは、当初は心配でしたが、子どもが困ったときにどうするのか、少し離れて見守ることができるようになりました。たくさんの既習の中から自分でつかみ取りにいかうとする姿を目の当たりにし、少し認識が変わりました。
- 誰一人取り残さないためには、一律の目標設定だけでは限界があると学びました。その子にとっての本時のゴール(My Goal)は何なのかを子ども達それぞれが持てることが子ども主体の学びのはじめの一歩になりそうです。
- 教科書を当該学年の使用に留めておくことはもったいないかもしれません。これまでに使用した教科書をロッカーにおいて置き、自由に既習に立ち返ることができるようにしたいです。

【参加者の感想より】



My Goal の設定等、新しいチャレンジとして実践されている授業に触れ、私自身も授業を見つめ直し、挑戦し続けていきたいと思いました。

中間指導を目標達成のための手立てとして位置づけることが大切だということを学びました。目標と指導、評価の一体化がなぜ大切なのか、すっきりしました。



《 社会 》 (小学校第4学年で実施)

研究員：◎東海林 真 教諭、丸山 裕史 教諭、安達 久美子 教諭

子どもが、問題解決的な学習のサイクルを自ら回し続け、学びを深める姿を！

教材との出会いの場を工夫し、自ら問いを持った子どもが、学ぶ内容や学び方を自己決定しながら問題解決に向かう姿を目指しました。



単元名 ◆きょう土の伝統・文化と先人たち「きょう土を開いた人」

【研究員の声】

- 子ども主体の「必要感のある学習計画づくり」を行ったことで、その後の単元でも、自分で問いを立てて学ぶ子どもが増えました。また、振り返りでICTを活用したことで、他者参照しながら自分の学びの変容に気づくことができていました。今回学ばせていただいたことを他の教科の学びにも生かしていきます。
- 各教科で見方・考え方を働かせて課題を解決していくことが、持続可能な社会の創り手の育成につながっていくと思うので、今後も授業づくりの中で力を入れていきたいです。
- 子どもが自ら学びをつくっていく授業にするためには、教師が教材をしっかりと吟味し、学びの過程やゴールにおける子どもの姿を明確に持ち、子どもと共に学習課題や学習計画を立てていくことが大切だと感じました。

【参加者の感想より】



子ども達が主体的に調べ学習に取り組んでいる姿が印象的でした。単元全体や本時の活動に見通しを持っていること、調べる時間が十分に確保されていること、視点が明示されていること等が効果的に働いたからこそだと思いました。

提案授業を参観して、学年段階に応じた「学び方を学ぶ」ことの大切さを実感しました。学び方を学ぶことで、新しい問いを見つけた時、困難に出合った時に乗り越えていけると思います。



単元を通して完結する学びのスタイル、1時間ごとの自らの課題を設定して学習する学びの作り方、すごく参考になりました。



《 国語 》

(小学校第4学年で実施)

研究員：◎島貫 梓 教諭、竹田 千明 教諭、安孫子 直美 教諭

自他の思いを豊かな言葉で表現できる子ども

課題意識を持たせ、学びの必要性を感じるよう単元の導入を工夫しました。理想の話し合いに近づけるために、比較や振り返りを行いながら、すべての子どもが主体的に考える授業を目指しました。

単元名 ◆役わりをいしきしながら話し合おう「クラスみんなで決めるには」

【研究員の声】

- 授業を行う際には理念を大切に、研究を行ってきました。しかし、興味や関心を持続させることが重要であると理解しつつも、子どもたちから出た課題であると、興味関心を持続させることが難しく、苦勞したという状況がありました。
- 子どもに委ねることは難しく、課題が多くありました。任せてみて、失敗した場合は修正し、再び挑戦させるという、繰り返し学び(学びの方法)も教えていくことが大切であると感じました。
- 自立した学習者を育成するためには、教師の指導観や子どもの学習観を大きく変える必要があると感じました。本プロジェクトを通じて実践した経験を活かして、自身をアップデートしていきたいです。



誰P研修会参加者の皆様、熱心に協議いただき、ありがとうございました。

第2回 資質・能力向上研究協議会

令和7年1月16日(木) 実施 参加者24名

次年度の校内研究の方向性を明らかにすることを目的に開催した本協議会では、第1回目に提案した置賜版「アクションプラン」の活用方法が話題になりました。アクションプランを使ってどのようにPDCAサイクルを回していくか、活用した学校のお話を伺うことができ、参加者の中に気付きが生まれるよい時間となりました。

温かな雰囲気の中、すてきな対話の時間をともにつくってくださった先生方、ありがとうございました。

【参加者のリフレクションより】

- ・今年度新しくアクションプランを作成したものの、先生方に使いやすいものになっていなかったのでは、と気付くことができました。アクションプランの使い方についても、みんなで検討する時間を確保できるようにしたいと思います。
- ・自分のニーズに合ったテーマについて、他校の先生と語り合うことができて良かったです。



第4回 全県学力向上 オンラインミーティング ～オンデマンド配信中♪～

2月5日(水)に行われた本ミーティングのオンデマンド配信をしています。先進校の実践を紹介しています。対話のきっかけに、ぜひご活用ください。

内容：教科担任マイスター県外研修報告
(秋田・静岡・福井)

配信期間：令和7年3月21日(金)まで

【オンデマンド配信用 URL】

<https://x.gd/DvSyI>



- ★「資質・能力向上研②」で紹介した静岡の学校についても、詳しく紹介しています。
- ★県外滞在研修には、万世小 小関 寛 教諭、小国小 舟山 康貴 教諭が参加されました。